

発行 神奈川県青少年指導員
連絡協議会
発行者 鈴木勝雄
連絡先 045-210-1111 (内線3851)
神奈川県青少年課内
印刷 内村印刷株式会社

活動のはしら

- 1 青少年の体験活動の促進
- 2 青少年団体の育成と支援
- 3 青少年に望ましい地域づくり
- 4 青少年に関する相談と対応
- 5 青少年に関する調査と情報提供

つばさ

神奈川県青少年指導員だより

広く顔の見える青少年指導員

Open & Share!



県協議会
会長
鈴木 勝雄

この度、第21期神奈川県青少年指導員連絡協議会（県青指連協）会長に選出され、誠に光栄に存じます。

今年、神奈川県は「青少年指導員制度」（昭和43年）が発足して40年目となり、一つの節目を迎えています。そこで、今期の県青指連協のスローガンを「Open & Share!」としたいと思います。すなわち、「広く顔の見える青少年指導員」を目指します。

具体的にお話しますと、まず「Open」では、さまざまな情報を公開し共有化したいと考えています。例えば、県青指連協の機関紙である「つばさ」や市町村の広報紙を電子化して、ホームページ等への掲載を検討することから始めます。これにより私たちの活動をより多くの方々に知っていただき、ご理解を賜りたいと思います。

そして「Share」とは、県がさまざまな先進的な青少年行政を本紙2面で紹介するように行う中で、広域

的（八都県市等）な青少年健全育成のありかたについても考えながら活動します。広い視野を持って、青少年指導員の役割について見つめるからです。さらに、青少年指導員のOB・OGの方々と連携した活動の可能性についても研究していきたいと思えます。

私たちは、神奈川県および市町村（または教育委員会）から委嘱（4月1日現在5,371名）され、40年の歴史あるシステムボランティア（制度化されたボランティア）である事を自覚し、「第三の大人（親、教師に次ぐ地域の大人）が変われば、子どもも変わる」をモットーに活動していきたいと思えます。また、県が進めている「神奈川県あいつ一新運動」についても積極的に推進することで、「広く顔の見える青少年指導員」活動を活性化させていきたいと思えます。

皆さまのさらなるご理解とご協力をお願いいたします。



県協議会
副会長
石井 一也

「人間として人間らしく...」

私たちの青指活動組織をここまで充実したもの構築された歴代役員の方々の活動を通してそれを支援された青指の皆さまに心より敬意と感謝の意を表すと同時にその重責を感じております。インターネットの普及に代表されるようにまさに今私たちが直面している急激に変化する社会において、原点を見つめ「より人間らしく...」を活動テーマに思っています。

青少年とともに



県協議会
副会長
高橋 一夫

青少年を取り巻く環境はここ数年で大きく変化し、青少年指導員も多方面にわたる活動が求められるようになりまし。そのような中、私達は、地域の大人として様々な活動を展開しておりますが、どんなに社会環境が変化しても、私達の活動の基本は、私達から青少年に語りかけること、そして青少年と一緒に知恵を絞り、汗を流していくことであると思っております。

第41回 青少年指導員大会開催

第41回青少年指導員大会は、平成20年11月9日（日）13時から、横浜市磯子区の「磯子公会堂」で行われます。オープニングセレモニーは、磯子区根岸「スタジオシャリオ（ダンススタジオ）」による若者の

ダンスパフォーマンスを予定しております。また、講演の講師は、特定非営利活動法人日本ガーディアン・エンジェルズ横浜支部長の坂井清美氏を予定しております。活動事例は港南区の「港南区子どもフォーラム」と瀬谷区の「瀬谷キッズデイ」の活動成果を発表します。



会場は、湘南地域において県大会が開催されます。皆さま方のご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

情報交換の場の活用



県協議会
理事
永野 勝

今期から理事に就任しました。どうぞよろしく。

青少年を取り巻く社会環境は大きく変わりました。体験学習や文化活動、少年野球などに参加して来る子ども達は、以前と変わりがなく元気です。しかしそのような活動の場へ出て来ない子ども達に、どのような仕掛けを用意したら良いでしょうか。県連絡協議会の情報交換の場を活用し、ヒントを得たいと思えます。

心の通った挨拶を



県協議会
理事
安藤 隆正

この度、横須賀三浦地域協議会から理事として選出

された横須賀の安藤です。今、深夜型社会が進んでいるなか青少年の非行防止と健全育成を図るには関係団体の協力と情報交換が必要で。そのためには地域団体が連携し情報の共有化と心の通った挨拶を推進し達成感のある活動でみんなが楽しみながらできることを青少年と共に考え将来を担う青少年のために頑張りたいと思えます。

日々の継続的な実践を



県協議会
理事
服部 通代

第21期の理事として、少しでもお役に立つことが出来ればと考えております。子ども達が健やかに育つ為には、豊かな経験が必要であり、それには単発の活動とともに、あいさつ運動などの、日々の生活の中で

の継続的な活動が、大切に

子どもと共に成長しよう



県協議会
理事
露木 清美

このたび県協議会理事となりました、足柄上（開成町）選出の露木です。

私は、県の情報や近隣市町村と常に情報交換等を行う組織が、県青少年指導員連絡協議会であると思っております。

今子ども達は「地域、学校、家庭」の中でなにが不足しているか？私たちの活動の中で何が出来るのか、我々も、子ども達と一緒に活動し共に成長し、楽しみながら活動して行ける場にしていききたいと思えます。

ひきこもり等に悩む 青少年の自立を促す

《ひきこもりとは》

厚生労働省によれば、「さまざまな要因によって社会的な参加の場がせばまり、就労や就学などの自宅以外の生活の場が長期にわたって失われている状態のことをさす」とされています。

また、精神科医の斎藤環氏は、その著書の中で「20代後半までに問題化し、6か月以上、自宅にひきこもって社会参加をしない状態が持続しており、ほかの精神障害がその第一の原因とは考えにくいもの」を「社会的ひきこもり」と定義しています。

《ひきこもり等青少年の現状》

「団体表示図書類制度」がスタート

前号でお知らせした、粗暴性・残虐性を有する家庭用ゲームソフトから青少年を守るための「団体表示図書類」制度が、この10月1日から施行されます。

○施行に向けた手続き

この制度は、家庭用ゲームの審査団体である「特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構(通称CERO)」が審査の結果、「Z区分(18歳以上のみ対象)」とし、

ひきこもり状態にある青少年がどの位、存在するか、正確なデータはありませんが、全国に100万人いるともいわれ、大きな社会問題になっています。

県立青少年センター青少年サポートプラザの電話相談の統計(平成16～19年度)でも、ひきこもりに関する相談は約1,300件と、相談全体の18%を占めております。

《ひきこもり青少年に対する県の取組み》

平成20年3月、知事の附属機関「神奈川県青少年問題協議会」が、「ひきこもり状態にある青少年の自立

青少年(18歳未満)に販売等を行わないとしているゲームソフトについて、県の条例上、県民の誰もが青少年に売ったり貸したり見せたりしてはならないとする努力義務を課すものです。

○CEROと「Z区分」

知事の指定団体であるCEROは、国内で販売される家庭用ゲームソフトの全てを審査し、それぞれのゲームソフトに含まれる内容や表現により、A、B、C、D、Zを対象年齢別の区分を行っています。店頭に並んでいる家庭用ゲームソフトのパッケージには、い

支援」と題する報告書をとめました。この報告書では、今後の取組みの方向として、①悩みに的確に対応する相談機能と情報発信の充実、②NPO活動の重要性・多様性を重視した支援の充実、③地域の資源を活用した支援のネットワーク化が示されました。県では、この報告を踏まえ、次のような取組みを進めています。

○ホームページによるひきこもり青少年支援情報の発信

県内の支援情報を集約したホームページを開発しました。ひきこもりについての理解、相談機関の紹介、民間支援団体の紹介、県の

携しながら、取組みを進めてまいります。中でも保護者の方にこの「Z区分」のマークの意味を知っていた



年齢区分マークはここです!

○「団体表示図書類制度」

今回創設した「団体表示図書類」制度は、こうした業界団体の取組みとも整合したものであり、今後、県ではゲーム関係団体とも連

支援情報を掲載しています。(検索サイトから「ひきこもり青少年支援情報」で検索できます。)



http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seisyonen/hikikomori/index.html

○ひきこもり等青少年自立支援プログラムの作成と実践

県では平成18・19年度の2年間、県内のNPO3団体に委託して、ひきこもり等青少年の自立支援に関するモデル事業を実施し、その成果を「ひきこもり等青少年自立支援プログラム」(自立に向けて大切にしたい

こと」としてまとめました。



平成20年度は、このプログラムを活用して、自立支援の取組みの普及・拡大に向けた実践的活動に取り組んでいます。

○地域理解の促進

ひきこもり状態にある青少年の問題は、単に青少年個人の問題として捉えるのではなく、現代社会における青少年の「生きにくさ」の象徴としてとらえるべき問題であり、当事者や家族が孤立してしまわないためにも、地域の理解が不可欠です。地域で活動されてい

青少年喫煙飲酒防止条例が全面施行されました

平成18年12月、保護者・事業者・県民・県が一体となって青少年の喫煙飲酒を防止する社会環境をつくることを目的に「青少年喫煙飲酒防止条例」が制定されました。

この条例により、保護者には青少年の喫煙や飲酒を未然に防止するよう努めることを、また販売者には、対面販売を行う際、青少年と思われる方には証明書の提示を求め年齢確認を行うことなどが義務づけられました。したが、昨年7月の施行後、様々な主体によりこの条例に基づく取組みが進められております。

一方、たばこやお酒の販売に係る業界においても、青少年の喫煙や飲酒を防止するための様々な自主

出会い喫茶について

最近、「出会い喫茶」といわれる業態の店舗が全国的に広がっており、県内でも数店舗が出店しています。この「出会い喫茶」は、利用客である男性が料金を支払い、店内にいる女性を選んで会話をし、さらに合意をすれば店外に連れ出せるというもので、現行の「風営法」や「青少年保護育成条例」等の規制対象とはな

的な取組みが進められております。具体例として、たばこ業界では、この7月からタスポ (taspo) を所有していなければ、自販機でたばこを買えなくなり、また、お酒を販売する業界でも酒類の自販機の撤廃を基本とした取組みが進められています。

こうした業界の動きに呼応して、本年7月から、条例により、たばこやお酒の自動販売機には、成人識別装置を設置することが義務づけられました。これにより青少年がたばこやお酒を手に入りにくい環境づくりを図ることができそうです。

今後、県といたしましては、条例の周知啓発に努力をまいります。青少年指導員の皆さまをはじめとした地域の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

【神奈川県県民部青少年課】

お問い合わせ先

神奈川県青少年課
045-1210-3840
青少年サポートプラザ
045-1263-4467

【神奈川県県民部青少年課】

活動ガンバっています!

▶ 地域活動報告「横浜」・「県央」から ◀

「学校に泊まろう!」
お泊まりキャンプ

港北区青少年指導員協議会
新羽地区会長 高橋 稔



開村式

「学校に泊まろう!」をテーマに、新羽中学校お泊まりキャンプを7月19日に開催しました。夕方から始まった開村式に集まった新羽小学校・新田小学校の児童14名は、初めて体験する「学校へのお泊まり」に、好奇心いっぱいでした。キラ目を輝かせていました。開村式を終え寝泊まりする4階の教室に移動し寝床の準備。我々スタッフは、恒例行事の「流しそうめん」の準備へと取りかかりました。例年になく暑い日差しの中、滝のような汗を流しつつも、子ども達の美味しそうに「流しそうめん」をほおぼる姿が何よりの充実感をもたらしてくれました。日も落ちはじめ中学生を主体とした「キャンプファイヤー」です。中学校先生



「流しそうめん」をほおぼる

の工夫を凝らした着火の演出に、皆驚きと感動につつまれました。内容は、中学生扮する火の神様が光臨したり、ダンス、ゲーム、歌ありと内容も抱負で子ども達を楽しませてくれました。次は体育館での映画鑑賞。涙を誘う内容であります。にぎやかで楽しそうな鑑賞風景でした。体育館での映画鑑賞といった、普段では味わえない環境が良いのではと思っています。そして、一日も終わりに近づき、夜中の1時頃までには小声で話す子ども達もいつしか眠りについておりました。翌朝6時起床、掃除、ラジ体操、朝食も終え、2日目のイベントは、「わくわく防災体験」。港北消防署・新羽地区消防団のご協力のもと、消火体験、三角巾の使い方、ロープワークを体験しました。また、消防隊員による消火作業にもびっくり。そして、最後の締めくくりに、みんなでス



消火作業にびっくり

イカを食べて、無事「閉村式」。充実した「お泊まりキャンプ」が実施できたのは、新羽中学校、新羽・新田小学校の諸先生方の地域への熱い思い、地域の皆様、地域子ども会、体育指導員連絡協議会、各位のご協力があつてからこそと感謝しております。「ひとりじゃない、重い荷物はみんなで分散して持てば良い。」そんな事を教えてくれた夏でした。

泉区で「第17回ふれあい軽スポーツ大会」を開催

泉区青少年指導員協議会
中田地区副会長 國分 満義

平成20年6月7日(土)に「第17回ふれあい軽スポーツ大会」が盛大に開催されました(場所:和泉遊水池4池)。当日は、天候にも恵まれ、1,100人という大変多くの方々にご参加いただきました。「ふれあい軽スポーツ大会」は、泉区内の障がい児・



みんなで力を合わせて!

障がい者とボランティア(中学生・高校生が主体)の皆さんが一緒にスポーツを楽しみながら、互いに理解し合い、心を通わせる泉区独自の催しです。この大会のすばらしいところは、大会の企画・運営を、泉区青少年指導員協議会を中心として、泉区主任児童委員連絡会や障がい者施設・団体、中学生・高校生を含めた「手づくりの実行委員会」が行っているということです。

また、この大会を契機に、地域作業所と学校との日常的な交流(車椅子体験・文化祭への招待等)が生まれ、福祉の仕事に就く卒業生も誕生しています。これからも、障がいがある・なしに関わらず、ともに理解し合い、助け合うことのできる地域を目指して、泉区青少年指導員協議会を中心に、区内の団体の協力を得ながら、第18回、第19回:と「ふれあい軽スポーツ大会」を続けていくことができれば、と思っています。

汗かき・頭かき
恥かき・頭かき

相模原市青少年指導員
連絡協議会会長 島津 信夫

本協議会は、設立から32年目を迎え、また、市町合併により新たな指導員を加えた総勢248名により、新たな一歩を踏み出しました。合併に伴い市が広域化する中、27地区の代表者による役員会、各地区から選出された指導員が構成する研修・事業企画・広報の3専門機関を通じて、「新・相模原市」として指導員が協力し、必要な知識や技術を習得できるように、連携を進めていきます。



実践しながら楽しく研修!

地域間の活動内容が、より多様化している状況を把握するため、昨年、地区の活動内容を調査してみると、各地区が地域性を考えながら積極的に活動を展開している状況がわかりました。特徴的な事業としては、7泊8日の長期間、施設での集団生活や登下校などを体験できるダイナミックな事業や、ハイキング、ウォーキングやほたる観察事業といった地域の大自然を活用した事業。中学の野球部員や高校の絵画部員等、腕に覚えのある中高生を指導者として巻き込んだ、学校と連携しながら中高生の特性をうまく生かしている事業。より多くの子ども達が、毎月のように実施される自然・社会・生活等の体験事業。



高校生が先生です!

事業の実施形態、内容はそれぞれ違っても、参加した子ども達のイキイキとした表情はどの地区でも同じです。地域・学校・家庭を巻き込んだ青少年育成についての意識啓発や、愛のパトロールを中心とした青少年のための環境づくりなども地道に続けながら、地域の子ども達のために出来る事を工夫しながら、指導員が皆、元気に活動しています。本協議会の合言葉「汗かき・恥かき・頭かき」の青少年指導員として。

有害図書類区分陳列等調査実施中

県では、市町村や青少年指導員の皆さまなどのご協力をいただき有害図書類区分陳列等調査を実施しており、7月1日より書店及び古書店を対象に、県内各地で調査が始まっています。今回はその調査の様子を報告します。

【横須賀市(横須賀中央駅付近)】

この日は書店、まんが喫茶、カラオケボックスやゲームソフト販売店などに、社会環境実態調査と合わせて調査を行いました。

【藤沢市(湘南台駅付近)】

この日の調査は、横須賀市の調査と同様に有害図書類区分陳列等調査と社会環境実態調査を兼ねているほか、愛の声かけパトロール巡回も兼ねています。有害図書類区分陳列等調査と併せてゲームセンターにも立ち寄り、喫煙をしている青少年がいまいかなど、見て回りました。

書店では、仕切板の設置など、条例に基づききちんと区分陳列されているか、18歳未満の方への販売や閲覧禁止の表示がされているか、カラオケボックスなどでは青少年の深夜立入禁止表示などがきちんとされているかなど、実際にお店を見て回りました。

また、調査をしている時に、Z区分ゲームソフト(18歳以上のみを対象とした家庭用ゲームソフト)を実際に見たことのない指導員もいたことから、指導員同士でパッケージを見ながら確認



ただいま打ち合わせ中

平成20年度青少年の健全育成を進める県民大会

平成20年7月12日(土)横浜磯子公会堂ホールにおいて、「青少年の夢と希望を育むために」家庭・学校・地域で出来ること」をテーマに、「平成20年度青少年の健全育成を進める県民大会」が開催されました。

当日は厳しい暑さの中、県内から青少年指導員をはじめ、約570名の方々の参加を得、横浜英和女学院



区分陳列しているかな？

年調査を行っているが、こうやって回っていることで、年々状況が良くなっている気がする。」という声が聞かれ、この調査が地域に根付いた取組になっていくことが感じられました。

県ではこうした地域の皆さまのお取組によりわかつた有害図書類販売等の実態を、社会環境健全化に向けた施策の参考として活用させていただきます。ご協力いただいた青少年指導員の皆さまには、深くお礼申し上げます。

かもめ通信

川崎市
10月無灯火自転車指導活動
平成20年10月9日(木)
*雨天中止
川崎市南町交番前

「みんなで考えよう親子の関係」研修会
平成20年10月19日(日)
川崎市役所7階会議室

第3回こどもとふれあう紙ヒコキ大会
平成21年3月1日(日)
川崎市立下平間小学校体育館(予定)

中原区青少年吹奏楽コンサート
平成20年11月3日(月・祝)
川崎市総合福祉センター(エポックなかほら)

高津地区青少年健全育成事業体検見学習習会
平成21年3月(予定)
小田原、伊豆長岡

橋の散歩道ウォークラリー
平成20年11月3日(月・祝)

橘地区北部

鎌倉市
中学生作文コンクール「鎌倉を世界遺産に！私の提案」
9/10月選考、12月表彰式
指導員活動報告展示
平成21年3月25/31日
鎌倉駅地下道ギャラリー

逗子市
第8回すし青少年ウォーラム
平成20年11月2日(日)
午後1時30分/4時15分
逗子市役所5階会議室

横須賀市・三浦市・厚木市
青少年指導員交流会
平成20年11月30日(日)
三浦市

相模原市
親子ふれあいの広場
11月9日(日)(予定)
相模原市立淵野辺公園

さがみはらスポーツフェスティバル
10月13日(月・祝)(予定)
相模原麻溝公園競技場

座間市
第23回ふるさとまつり
11月2日(日)
かにが沢公園、県立座間谷戸山公園広場等

第32回座間市青少年健全育成大会
11月29日(土)
ハーモニーホール座間

第29回座間市青少年芸術祭展示部門「青少年美術展」
平成21年2月21日(土)~22日(日)

JUMP UP 20 WINTER CONCERT
12月13日(土)午後1時開場
藤沢市労働会館

小田原市
第23回中学生の主張発表
12月20日(土)
小田原市生涯学習センター

わくわく子どもフェスタ
2月21日(土)・22日(日)
小田原市生涯学習センター
けやき 全館

県立清川青少年の家
環境学習プログラム研修
10月25日(土)・26日(日)
1泊2日

キャンプ指導者技術研修
11月8日(土)・9日(日)
1泊2日

自然体験活動企画セミナー
12月6日(土)・7日(日)
1泊2日

冬の自然体験活動指導者研修
1月24日(土)・25日(日)
1泊2日

CONNELリーダー養成講座
2月7日(土)・18日(土)・19日(日)
日帰り1日、1泊2日

編集後記

つばさ編集委員

猪俣 武雄

第21期編集委員に選任された5名は、今年の39号広報「つばさ」の発行にあたり、青少年指導員活動が連帯感をもって取り組んでいただけるよう、お互いの情報交換のお手伝いをする事に頑張っていました。

各地区の特色ある取り組みや、活動状況を皆さまにお知らせし、それぞれの立場で健全育成活動に役立てて頂く使命を持っています。

皆さま方の期待にどこまで応えられたかわかりませんが、紙面づくりにご協力いただいた指導員の皆さまに大変感謝申し上げます。

今後ともよろしくお願ひいたします。

「つばさ」第21期編集委員

- 猪俣 武雄 横浜地域
- 児玉総一郎 川崎地域
- 廣田 和江 湘南地域
- 富樫 文衛 県央地域
- 露木 清美 担当理事

中学高等学校音楽部による合唱の後、横浜市立金沢高等学校の生徒さんの司会で開会しました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、コーディネーターの日本大学教授、佐藤晴雄さんから、青少年とのコミュニケーションに係る問題点として、「直接的なコミュニケーションの不足」「考え方の違いな

このコミュニケーションの「悩みや問題を共有して一緒に乗り越えて行く事が大切」との意見が述べられました。

また、別所パパの会代表の坂本直樹さんからは、キヤンプファイヤーなどの活動紹介と併せて、「子ども達を育てるのは親だけでは難しい。家庭、学校、地域でたくさんの方が子どもを見守っていく事が必要で、係わる仲間を増やしたい。」との意見が述べられました。